



写真254

Emāmzādegān Solṭān Maḥmūd va Zeinab Khātūn

写真254 Emāmzādegān Solṭān Maḥmūd va Zeinab Khātūn。ハラムの中。飾り気のない狭い空間に、シンプルなアルミ製ザリーが置かれている。



写真 255

Shāhẓāde 'Abbās

写真255 Shāhẓāde 'Abbās。新しい廟を建築中。ドームを乗せるための土台はできているのだが、ドームを乗せるにはまだ予算が足りないので、とりあえずの屋根をつけているとのこと。



写真 257

Shāhẓāde 'Abbās

写真257 Shāhẓāde 'Abbās。墓に貼られたタイルの一枚。廟に関わりのある人物の名が見える。



写真 256

Shāhẓāde 'Abbās

写真256 Shāhẓāde 'Abbās。扉の壊れた木製ザリー。廟の入り口とは反対側から。中には青いタイルを貼った墓が置かれている。このザリーのように傾斜の着いた屋根を持つ木製ザリーもまだ地方では時々見かける。

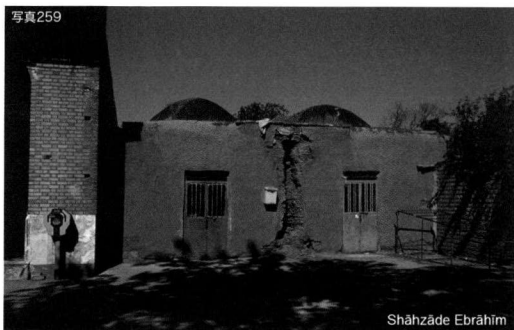


写真259

Shāhẓāde Ebrāhīm

写真259 Shāhẓāde Ebrāhīm。二つ並んだ扉の左側が廟への入り口。壁が崩れるなどして、傷みが目立つ。隣接するマスジェドが大きく、煉瓦造りの立派なものなので、その落差に驚く。



写真258

Shāhẓāde 'Abbās

写真258 Shāhẓāde 'Abbās。廟内を通る水路。カナートを通ってきた水がここから周囲のバグへと流れて行く。



写真260 Shāhẓāde Ebrāhīm。手前のホウズは、ガナートの水を引いて溜めたもの。写真の時期は水が少なく、底が見えるほどになっていたが、通常は水がいっぱいになっているとのこと。

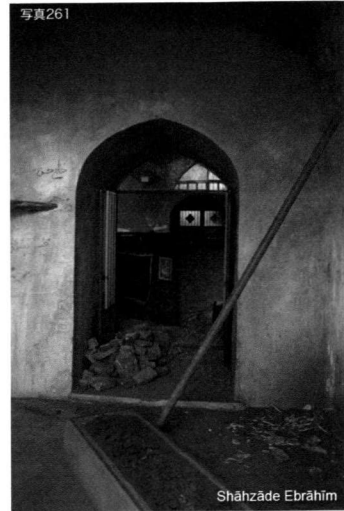


写真261 Shāhẓāde Ebrāhīm。廟の扉を開けると墓が並ぶ部屋があり、その奥がハラム。修復のための足場が組まれたり、ハラムの床がはがされたりしていた。

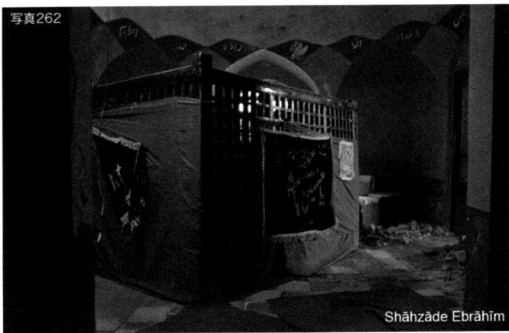


写真262 Shāhẓāde Ebrāhīm。ハラムの様子。落ちた壁が床に散らばっている。ドーム下部をぐるりとエマームの名前などが取り囲んでいる。右手にも扉があり、隣の小部屋へと続いている。



写真263 Shāhẓāde Ebrāhīm。アップースのものとして伝えられる墓。煉瓦を芯にしてしっかりと固め、緑のペンキで塗られた簡単な小さな墓。廟内に散らばる煉瓦が当たったのか、周囲がだいぶ欠けている。

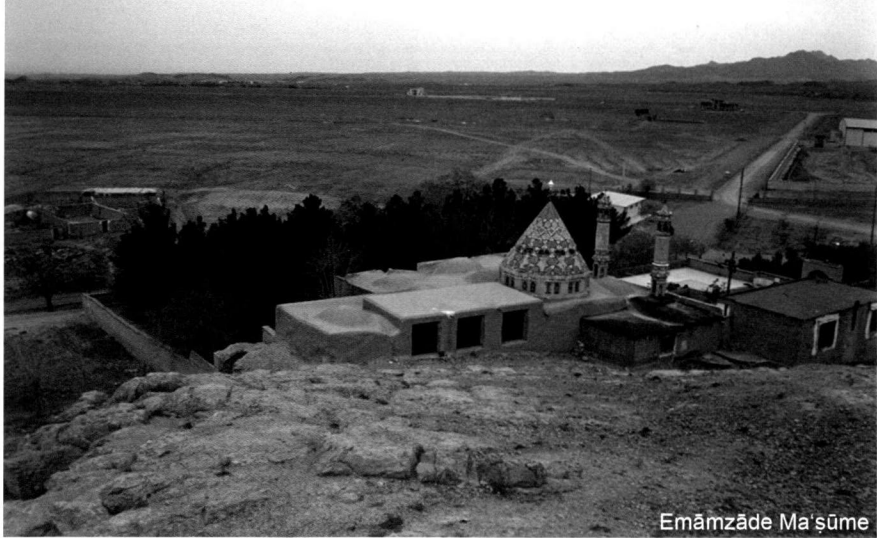


写真264 Emāmẓāde Ma'sūme。緩やかな斜面を登ると、古い角錐ドームを持つ廟が見える。近年は整備が進められ、廟の隣にはトイレや管理事務室が作られ、廟前はコンクリートブロック敷きとなっている。



写真265 Emāmẓāde Ma'sūme。ドームはまだ古いままで、彩色タイルが一部剥落するなどしている。これも早く新しくしたいと、寄付を募っていると管理人らが話していた。

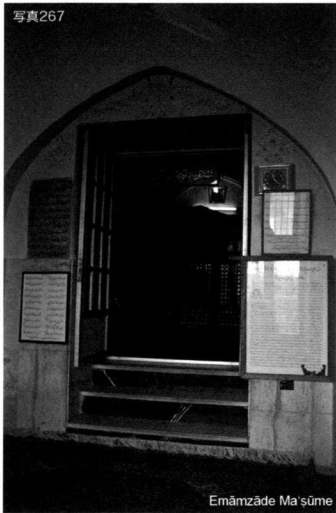
写真266



Emânzâde Ma'sûme

写真266 Emânzâde Ma'sûme。丘の上から。斜面に張り付くようにして建っているのが分かる。緑が固まっている部分にはガナートで引かれた水を溜めたハウスがあり、休日にはピクニックを兼ねた人々でいっぱいになる。

写真267



Emânzâde Ma'sûme

写真267 Emânzâde Ma'sûme。廟の入り口からハラムを見る。入り口脇には、信者の寄付したいくつものズィヤーラト・ナーメやエマームザーデに捧げられた詩が据えられている。

写真268



Chahâr Emânzâde

写真268 Chahâr Emânzâde。町外れの小さな墓地の中に建つ廟。以前はもう少し墓地が広がっていたとのこと。

写真269



Chahâr Emânzâde

写真269 Chahâr Emânzâde。墓地の中から。新旧の墓が広がっている。改修工事のため、煉瓦があちこちに置かれているが、工事が進められている様子は見られない。



写真270 Chahār Emāmzāde。入り口から廟内を見る。シンプルなアルミ製のザリーが置かれている、シンプルな廟内。



写真272 Shāh Qāsem。壁の跡の上から。少しだけ盛り上がった土に、壁の跡をたどることができるが、その壁沿いのあちこちに盗掘が行われた跡の穴が見られる。



写真274 Emāmzāde Mohsen。廟脇のガナート出口側から。新しく建てられた廟だが、前面はタイルが貼られたものの、側面はまだ芯の煉瓦や鉄骨がむき出しのまま。



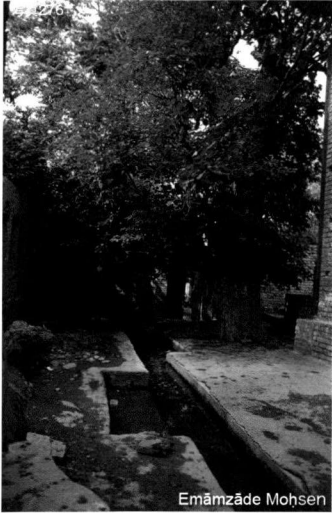
写真271 Shāh Qāsem。ガナートの出口。ガナートの出口に向かって左上部が以前の廟の跡。少し土が盛り上がって見える部分が、以前壁だったところと思われる。



写真273 Shāh Qāsem。盗掘の跡。かなり深く彫り込まれたこうした盗掘跡が、壁に沿っていくつも並んでいる。盗掘が盛んに行われていたのは革命前後のころだったとのこと。

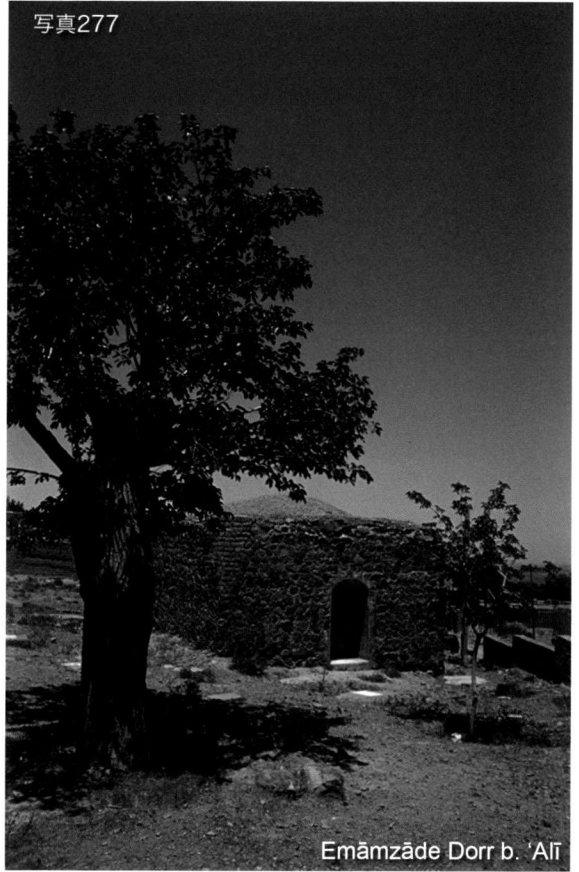


写真275 Emāmzāde Mohsen。廟内中央に置かれた二段になった大理石の墓石。上に乗った花かごからも分かる通り、サイズとしてはそれほど大きなものではない。



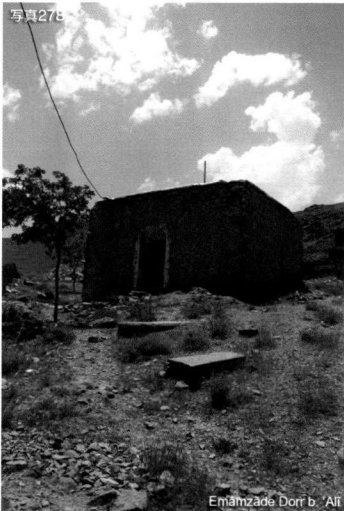
Emāmzāde Mohsen

写真276 Emāmzāde Mohsen。廟の脇を流れるガナートの水路。以前は共同の水場として女性たちが集まっていたとのことだが、現在は水道が引かれたためあまり使われなくなっているとのこと。



Emāmzāde Dorr b. 'Alī

写真277 Emāmzāde Dorr b. 'Alī。廟の脇を通る小さな谷の上から廟の正面入り口を見下ろす。



Emāmzāde Dorr b. 'Alī

写真278 Emāmzāde Dorr b. 'Alī。廟の脇を通る小さな谷から廟を見上げる。扉は入り口ではなく、正面入り口はこの左手。水も流れていない小さな涸れ川ではあるが、こうして見上げてみれば、谷川沿いにあるのだと実感できる。



写真279

写真279 Emāmzāde Dorr b. 'Alī。廟内中央に置かれた墓石。手前は信者が寄贈した石版。



Emāmzāde Dorr b. 'Alī

写真280 Emāmzāde Dorr b. 'Alī。村の人に聞いても、この村の三つのエマームザーデのうち二つの名前が特定できなかったが、廟の中にこの布が下げられていたので、こちらがEmāmzāde Dorr b. 'Alīと分かった。

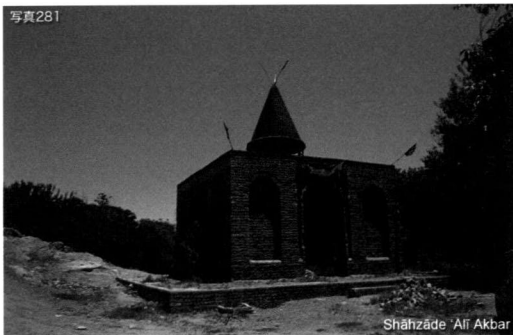


写真281 Shāhẓāde 'Alī Akbar. パークの中に建つ廟。煉瓦が置かれていたり、工事人もおらず、工事が進んでいるようには見えなかった。

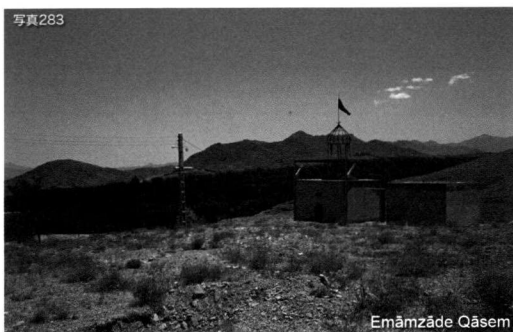


写真283 Emāmẓāde Qāsem. 村と廟を挟むパークを背景にして。外壁の改修が終わり、最近よく見かける形のドームを置くために、上に向かって廟を伸ばそうとしている様子がよく分かる。

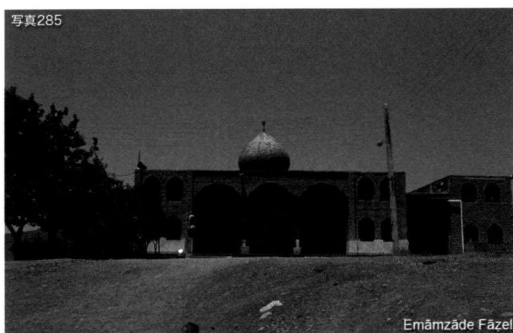


写真285 Emāmẓāde Fāzel. 新しい廟を建築中。ドームにタイルを貼ったり、外壁に石材あるいはタイルを貼ったりする作業がまだ残っているはずだが、その作業のための準備が進んでいるようには見えない。

写真286 Emāmẓāde Fāzel. 廟の正面の丘の上から。床面の下に更に様々な施設が作られているのが見える。土曜日の午後や宗教的の休日になると、村の外からも人が集まってきて、駐車場がいっぱいになるという。



写真282 Shāhẓāde 'Alī Akbar. まだ窓は入っていないが、まだ未完成の外壁とは異なり、化粧タイルも床も貼られている。床にも埃はほとんど積もっておらず、誰かが訪れ、掃除をしていることが分かる。



写真284 Emāmẓāde Qāsem. 入り口から中を見ると、墓石でいっぱいになっている小さな廟であることがよく分かる。入り口に墓石の角が来ており、廟の四辺と墓石の四辺の向きは異なっている。

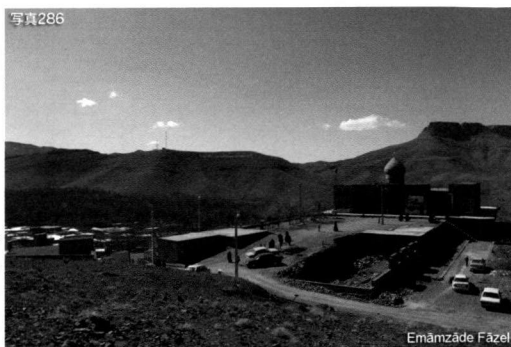




写真287 Emāmzāde Fāzel。廟の真ん中に台が作られ、アルミ製のザリーが置かれている。廟は、ズィヤーラトガーであるが、同時にこの広い空間は、ホセイニーエとして、人々が集会を開くためにも使用されている。

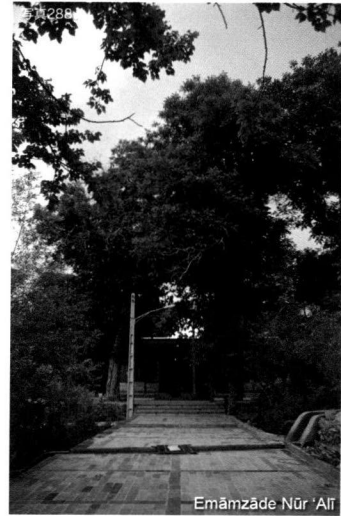


写真288 Emāmzāde Nūr 'Alī。カスピ海岸を思わせる濃い緑の中に建つ。廟前の道は舗装され、廟そのものも新築中。

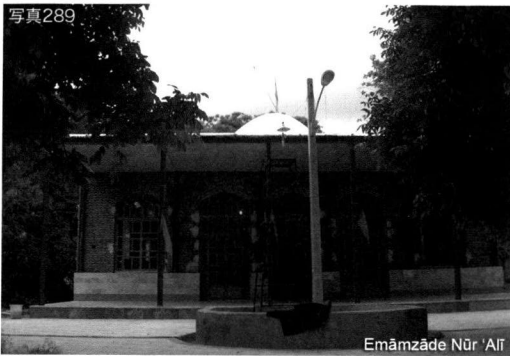


写真289 Emāmzāde Nūr 'Alī。建築途中の廟。まだ外装とドームのタイル貼りが終わっていないため、廟内のおちこちに寄付の呼びかけと振込先を書いた紙が貼られていた。



写真290 Emāmzāde Nūr 'Alī。廟内は壁も塗られ、石も貼られ、ほぼ工事が終わっている。それほど広くないハラムはカーテンで男女別に仕切られ、それぞれの側から礼拝のためのサロンに出入りができるようになっている。



写真291 Emāmzāde Nūr 'Alī。廟の周囲に作られたザールサラ。夏になると、家族連れなどでいっぱいになり、更に周囲にはテントを張って過ごす人も多いという。

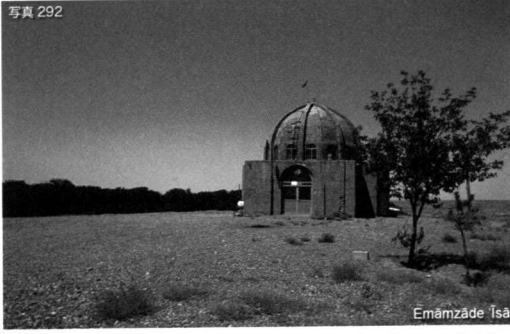
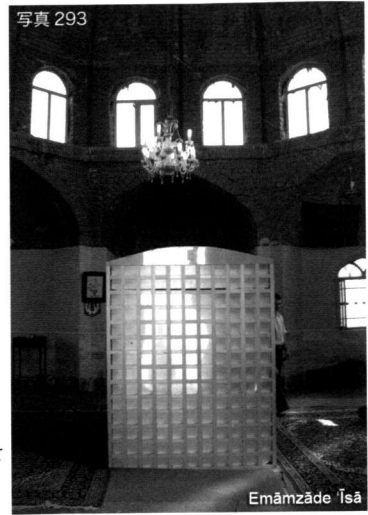


写真292 Emāmzāde Īsā。ビヤバーンの中につつ、コンクリート製のシンプルな廟。写真左の緑はバークのもの。

写真293 Emāmzāde Īsā。廟の中。壁の上部からドーム部分にかけては煉瓦がむき出しのままになっているが、工事が行われる様子は見られない。



ファルドゥ地区 (Dehestāne Fardo) の聖所

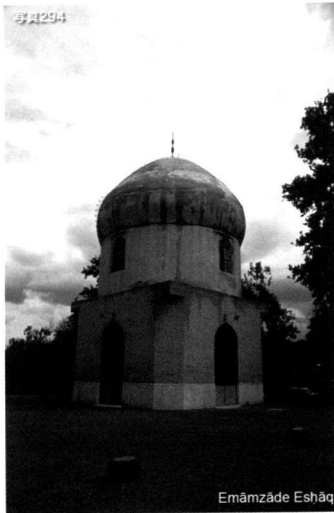


写真294 Emāmzāde Eshāq。バークの中につつ廟。コンクリートのままの大きなドームとその下のハラムの大きさのアンバランスさが目立つ。



写真295 Emāmzāde Eshāq。アルミ製ザリーの中におさめられた大理石の墓石。ザリーとは異なる角度となっているが、理由はキブラの方向と建物の四辺の向きずれによるもの。



写真296 Emāmzāde Ebrāhīm。補修の跡は見られるが、あちこちいたみも目立つ。廟の向かって左手から裏にかけて建てられていた日干し煉瓦の建物はすっかり崩れ、墓地との間の土堀も何カ所か崩れてしまっている。

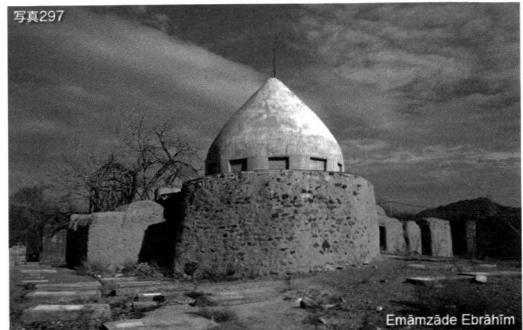


写真297 Emāmzāde Ebrāhīm。廟の裏側から。この円筒の部分がオリジナルの廟。墓が廟のすぐ周囲まで迫っている。

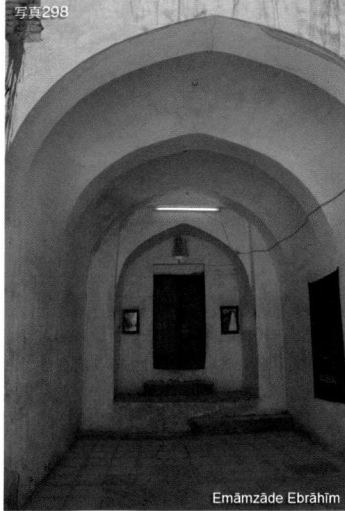


写真298 Emāmzāde Ebrāhīm。入り口前。
雨などにより漆喰が一部落ち、しみができてしまっている。この床面にもいくつもの墓が見える。石段のように見えるものも墓石。扉の両脇にはアーブギーネ（鏡）。

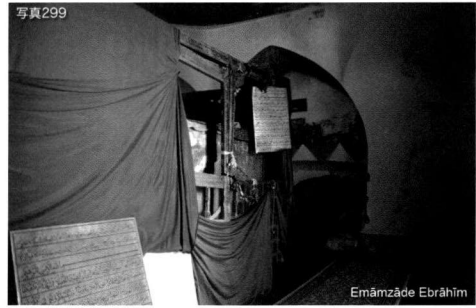


写真299 Emāmzāde Ebrāhīm。ハラムいっぱいになるほどの大きな木製ザリーだが、正面入り口に面した部分は破損が大きい。ハラム内の漆喰も、雨漏りによるしみが見られ、雨雪の多い秋から冬にかけては、廟内がずいぶんと湿っぽく感じられる。



写真300 Emāmzāde Ebrāhīm。
廟の入り口脇に据えられたアーブギーネの一つ。半分ほどは曇ってしまって写りが悪くなっているが、もう半分は十分に現役。このように入り口脇にアーブギーネが据えられている廟は多い。



写真301 Emāmzāde EbrāhīmとEmāmzādegān Setiye Khātūn va Sakine Khātūn。同じ敷地内に建てられた二つの廟。エマームザーデ・エブラーヒームの方が少しだけ高い位置にある。

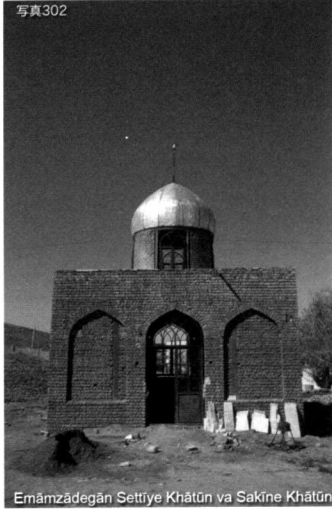


写真302 Emāmzādegān Setīye Khātūn va Sakīne Khātūn。
廟の正面から。何回か訪れているが、いつも作業員の姿はなく、
しかし作業だけは少しずつ進んでいる。

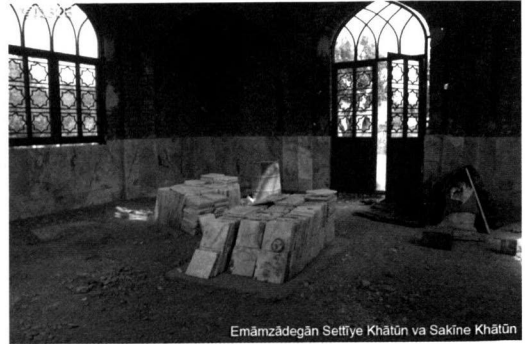


写真303 Emāmzādegān Setīye Khātūn va Sakīne Khātūn。
2009年。廟内は工事のためザリーも墓石も取り払われているが、
墓石のあった場所に床材になると思われる石材が置かれている。



写真304 Emāmzādegān Setīye Khātūn va Sakīne Khātūn。
2006年。工事のために使われた煉瓦などが散らばる中、古い木の
ザリーだけが置かれていた。中の墓石は既に見えない。



写真306 Shāhzhāde Esmā 'īl。2009年。廟の正面から。ドーム
に新しくタイルが貼られている。廟に向かって左手の建物はマス
ジェド。



写真305 Shāhzhāde Esmā 'īl。2006年。廟の後背の丘の上から。建物部分の屋根はイーゾガームによって雨雪
の対策が行われているが、ドームはオリジナルのタイルがほとんど落ちてしまい、寂しい状態になっている。

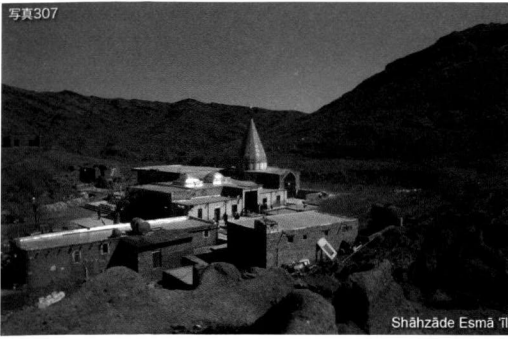


写真307 Shāh-zāde Esmā'īl。廟の入り口脇の丘の途中から。廟に接して扉が並んでいる建物はザールサラ。手前の二つの建物は、トイレや台所、商店、廟の管理事務所など。

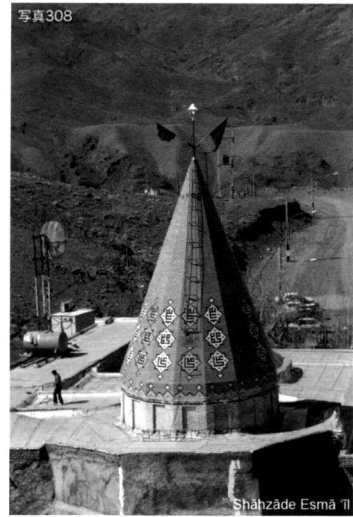


写真308 Shāh-zāde Esmā'īl。新しく貼られたドームのタイル。背後の丘から廟の屋上に乗ることができる。



写真309 Shāh-zāde Esmā'īl。ハラムへの通路と入り口。ドームの下の塔状のハラムはザリーでほぼ一杯。階段下の左右に礼拝用の小部屋がある。



写真310 Shāh-zāde Esmā'īl。ハラムの扉脇に残る、廟が建てられた当時のものと言われるタイル。一部は失われてしまっているが、一部はまだこのように残されている。

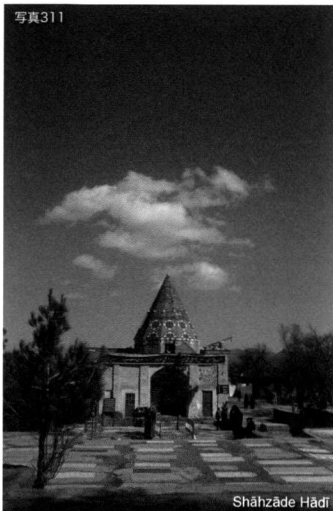


写真311 Shāh-zāde Hādī。正面入り口から。墓がびっしりと並ぶ墓地の向こうに建つ廟。2009年には、剥落が激しかったドームのタイルの修復が始まっていた。



写真312 Shāh-zāde Hādī。ハラム天井。一部漆喰が落ちてしまっているが、彩色された紋様が覆われている。



写真313 Shāhẓāde Hādī。廟の正面エイヴァーン上部。花鳥図で飾られているが、雨漏りによるひび割れやしみで破損が見られ始めている。それほど古いものではないからと、保存には消極的な様子。



写真314 Shāhẓāde Hādī。敷地内に用意されたザーエルサラール。10部屋以上が用意されているが、夏にはいっぱいになることも多いとのこと。

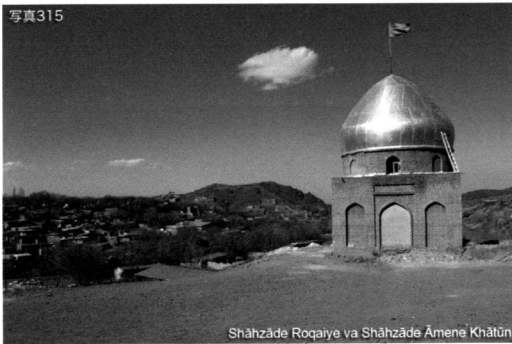


写真315 Shāhẓāde Rōqaiye va Shāhẓāde Āmene Khātūn。丘の上に建つ、大きなドームが目立つ建築途中の廟。外装工事が残っているように見えるが、工事が継続して行われようとしているようには見えなかった。



写真316 Shāhẓāde Rōqaiye va Shāhẓāde Āmene Khātūnの建つ丘の上から、谷を挟んだ村と、丘の下の墓地を見下ろす。墓地の中の屋根のかかっている区画は殉教者墓地。



写真317 Shāhẓāde Rōqaiye va Shāhẓāde Āmene Khātūn。2006年のハラム内の様子。布で覆われた二人の墓石が並んでいる。

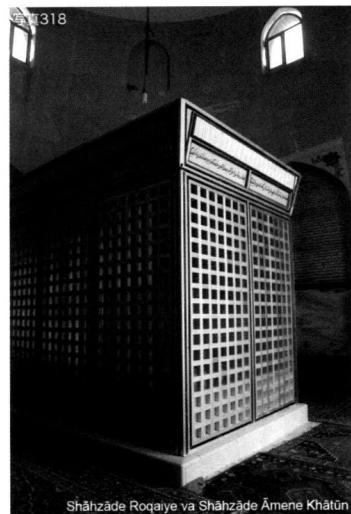


写真318 Shāhẓāde Rōqaiye va Shāhẓāde Āmene Khātūn。2009年には、墓石はアルミ製のザリーで覆われていた。



写真319 Emāmzāde Būre。廟の建つ一角の周囲はバークが広がっているが、廟の周囲はハウスを作ったり、ズィヤーラトの人々のための施設を建てるため、土が掘り返されたり煉瓦が積まれていたり、雑然とした様子。



写真320 Emāmzāde Būre。廟の入り口から奥を見ると、四つのサンドウグが二列に並んでいるのが見える。明らかに手前の二つが大きく、奥の二つは小さい。



写真321 Emāmzāde Būre。ワクフ慈善庁がこの廟の名前としてリストに載せている、エマームザーデ・ホセインのサンドウグ。これだけ緑に塗られた木のサンドウグをガラスケースで覆っている。

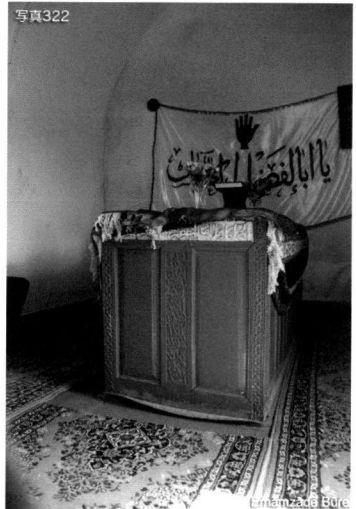


写真322 Emāmzāde Būre。入り口から見て奥の部屋に置かれたサンドウグの一つ。二人埋葬されている女性の一人サキネ・ハートゥーンのものとする。

ネイザール地区 (Dehestāne Neizār) の聖所



写真323 Emāmzāde Mo'ayyen。近所にあるエマームザーデ・エブラーヒームから畑越しに見て。血縁関係があるわけではない4人のエマームザーデの廟がこの一角に集中している。



写真324 Emāmzāde Mo'ayyen。ハラム部分とは不釣り合いな大きなドームを持つ廟。屋根から突きだしている鉄筋や、煉瓦のままの外壁などまだ工事が終わっていないように見える。

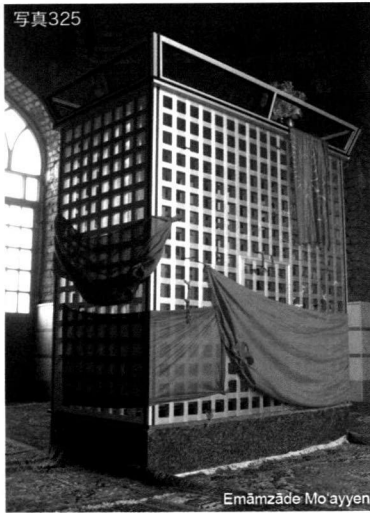


写真325 Emānzāde Mo'ayyen. 廟内に置かれたアルミ製のザリー。床には絨毯が敷かれ、内壁も一部は石材が張られているが、ほとんどはまだ煉瓦がむき出しのまま。



写真326 Emānzāde Khadije Khātūn. 廟の正面から。ドームのタイルはほとんど剥落し、入り口前のファサード部分も取り壊されている。改修のための資材は墓地の一角に置かれているので、工事が始まるのではないかと思われる。

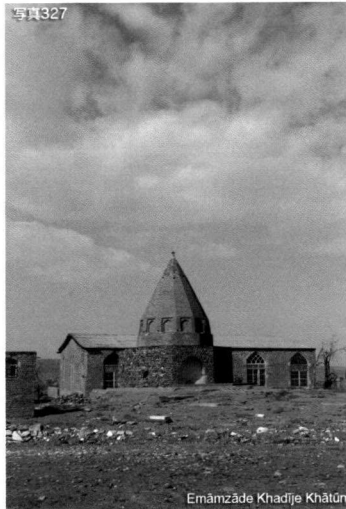


写真327 Emānzāde Khadije Khātūn. 廟の後ろから。廟の石積みは補修のために最近行われたもの。廟の向こうの建物は村のマスジェド。

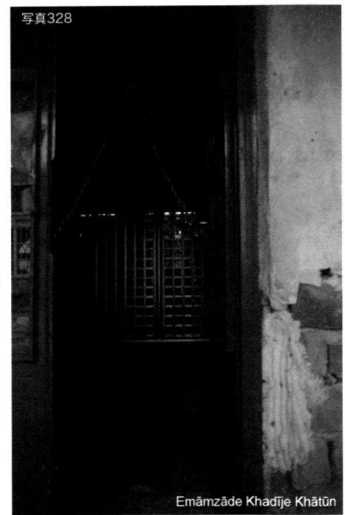


写真328 Emānzāde Khadije Khātūn. 廟の入り口から中を覗くとほぼすぐ目の前にザリーが置かれている。入り口前などは煉瓦や漆喰が散らばっているが、ハラム内は手入れが行き届いている。



写真329 Emānzāde Khadije Khātūn. ハラム天井ドーム。亀裂が入ったり漆喰が剥落したりしている部分もあるが、シンプルで落ち着いた雰囲気気の装飾。

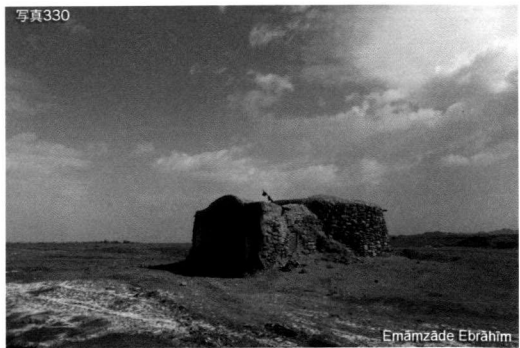


写真330 Emānzāde Ebrāhīm. 村への入り口脇に建つ小さな廟。背の低い廟に見えるが、これは周囲の土地が高くなってしまったため、廟の床面は地面より30センチメートルほど低い。



写真331 Emāmzāde Ebrāhīm。廟の後ろから。写真左に見えるのは、エマームザーデ・ハディージェ・ハートゥーンとその隣のマスジェド。写真には入っていないが、右手方向にエマームザーデ・モアイエンがある。



写真332 Emāmzāde Ebrāhīm。正方形に近い大きな墓石が置かれたハラム。墓石の周囲をめぐるのが精一杯で、礼拝を行うには少々狭いように見える。また、電気は引かれてはいるはずなのだが、明かりがつかないため廟内は薄暗い。



写真333 Emāmzāde Ebrāhīm。墓石の上に広げられたジャー・ナマーズ（礼拝の際に使用する敷物）にモフルがいくつも並べてある。廟に備え付けの備品かとも思えるが、同行のイラン人からは「身代わり石のようなものかも」との意見も。



写真334 Emāmzāde Zakariyā。2006年。それ以前の建物を取り壊し、新しい廟を建築中。廟の右手奥に見えるのは、エマームザーデ・エブラーヒーム。村へ向かう道路を挟んでほぼ向かい合っている。

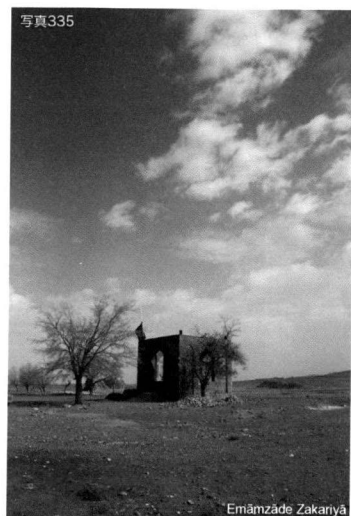


写真335 Emāmzāde Zakariyā。2009年。壁はほぼ積み上がっているが、天井と窓はまだできていない。



写真336 Emāmzāde Zakariyā。廟内にとりあえず作られた、コンクリートブロックによる墓石。2006年にはなかったものだが、床や天井よりもまず墓石が先に作られるらしい。

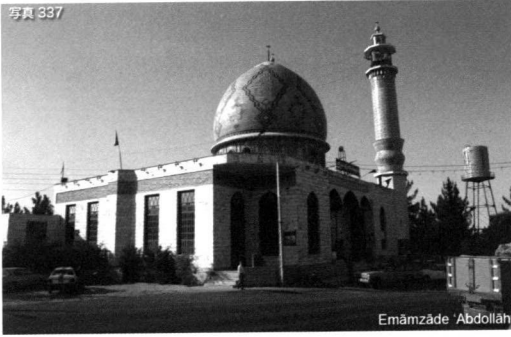


写真337 Emāmzāde 'Abdollah。2000年頃の撮影。ゴム-デリージャーン街道を行き来する自動車が多く足を止めていた。

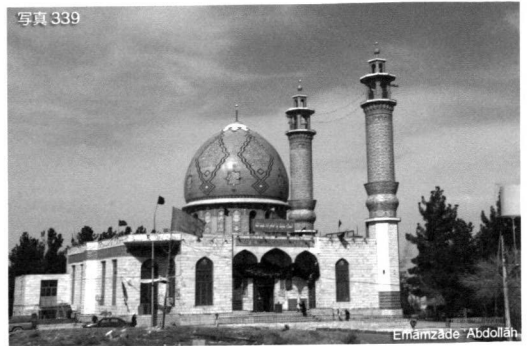


写真339 Emāmzāde 'Abdollah。2006年。ゴルダステが一本から二本に増え、窓枠が緑色に塗られるなど、少しずつ完成に向けての作業が進んでいることが分かる。

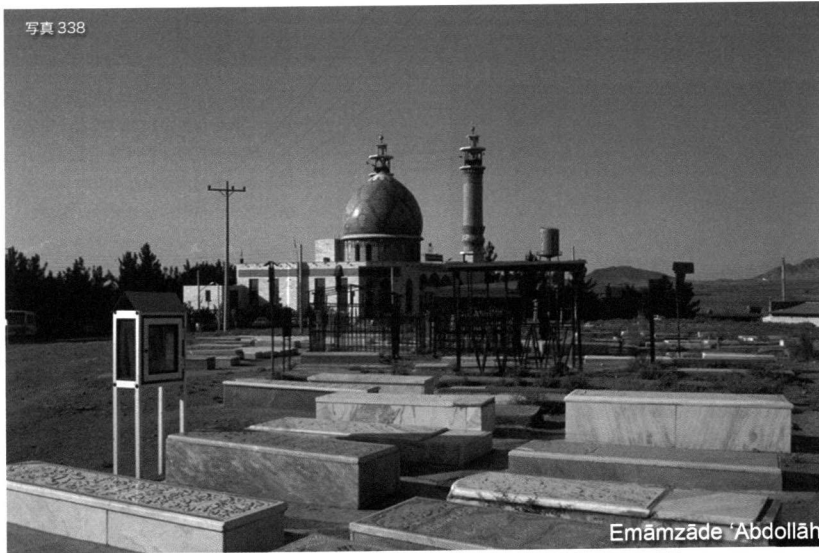


写真338 Emāmzāde 'Abdollah。2006年。道路を挟んだ墓地から。ガルエ・チャム村の人だけでなく、様々な場所からここに運ばれ、葬られた人も多いとのこと。

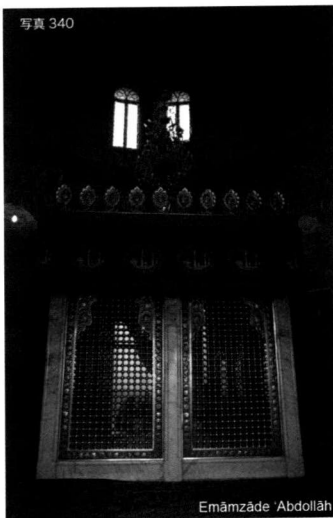


写真340 Emāmzāde 'Abdollah。正面入り口扉から中を覗くとすぐに大きなエスファハーン型ザリーが目に入る。ハラムそのものはそれほど大きくなく、礼拝や休息の人はハラム脇の部屋を利用するようになっている。

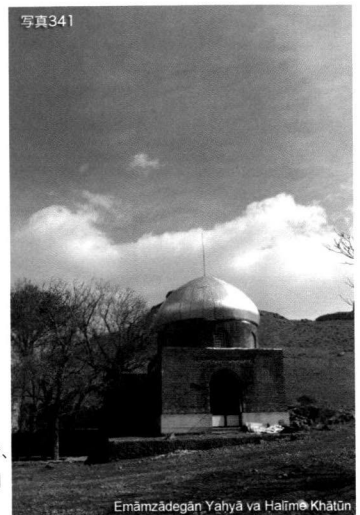


写真341 Emāmzādegān Yahyā va Ḥalīme Khātūn。山の麓に建つ大きなドームの新しい廟。他所でも見たような外観で、正直なところ、周囲の風景がなければ区別がつかない。



写真342 Emāmzādegān Yahyā va Ḥalīme Khātūn.
外観は仕上がっていないが、ハラム内は漆喰で壁が仕上げられている。しかし、既に雨漏りのしみができている。



写真343 Emāmzādegān Yahyā va Ḥalīme Khātūn.
ザリーの中の大理石張りの墓石。ザリーの四辺とは45度ずれている。二人以上埋葬されている場合、墓石を人数分置く場合もあるが、このように一つで済ませることも多い。



写真345 Emāmzāde Sāriye Khātūn. 廟の正面から。オリジナルの廟に新しくいくつかの部屋を建てましたため、正面から見ると新しい廟のように見える。

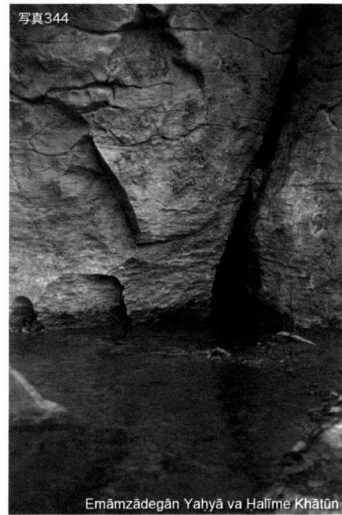


写真344 Emāmzādegān Yahyā va Ḥalīme Khātūn.
廟の裏手に湧いている泉。岩の割れ目の下から水が湧き出し、周囲を潤している。この数年の小雨で水量は減ったが、どんなときでも涸れることはないという。

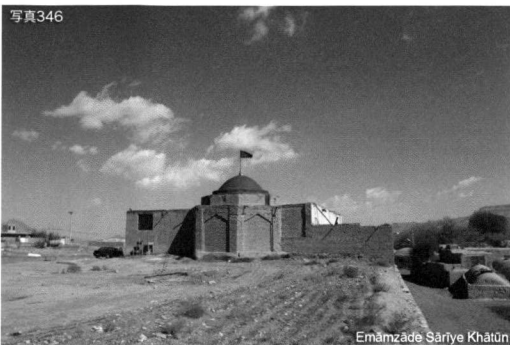


写真346 Emāmzāde Sāriye Khātūn. 廟の裏側から。本来の廟は中央に見える塔状の部分のみだったとのこと。その周囲に墓地が広がっており、現在も使われている。



写真347 Emāmzāde Sāriye Khātūn. 古い廟に建て増しを行って、古い部分をそのまま部屋として取り込んでいる。ハラムは以前、塔状の建物として独立して建てていたものが、六角形の部屋として廟内にそのままの形で残されている。



写真348 Emāmzāde Sārīye Khātūn。ハラム正面は扉があるが、脇を見ると、マシエド部分とこのようにつながっている。廟内にはアルミ製のザリーが置かれている。

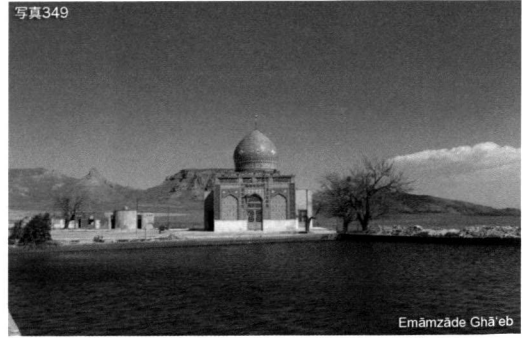


写真349 Emāmzāde Ghā'eb。ピヤールバーンを背景に建つ青いドームが印象的な廟。廟前のホウズはガナートで引かれてきたものとのことで、一度ここに溜められ、その後村へと流れていく。

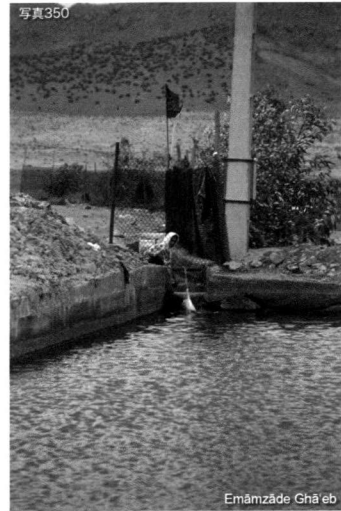


写真350 Emāmzāde Ghā'eb。ガナートの出口からホウズへ水が流し込まれる短い水路で洗い物をする女性。一番きれいな水を使うため、村から少し歩くが、ここまでやってくる。



写真351 Emāmzāde Ghā'eb。色ガラスを多用した明るい廟内。村の数や人口がそれほど多くない地域で、これだけの廟を建てることのできることに、これだけの規模の廟が必要なのか不思議な感じもする。

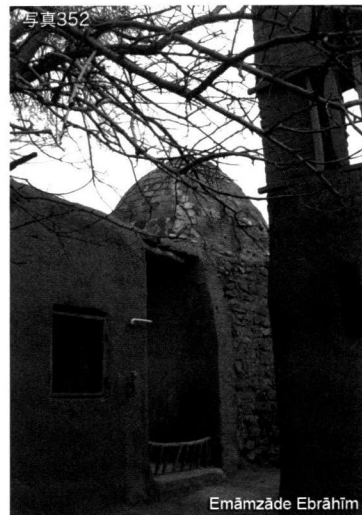


写真352 Emāmzāde Ebrāhīm。地区の中心として新しい建物の並ぶ町が広がってきているが、まだ古い土作りの建物が残る一角が町の外れにある。自動車も入れない細い村の道に面した角に、見上げていない気がつかないようなドームが見える。

ダストジェルド地区 (Dehestāne Dastjerd) の聖所



写真353 Emāmzāde Ebrāhīm。バークに面した側の道から。廟の向こう側も向かって右手も全てバーク。廟が村の外れにあることがよく分かる。

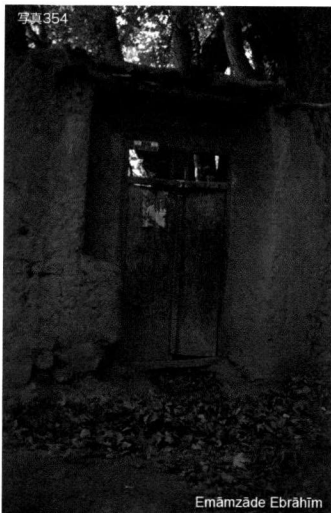


写真354 Emāmzāde Ebrāhīm。バーク側に作られた出入口。本当に開け閉めができるのか疑ってしまう様子だが、扉上には郵便コードのパネルも取り付けられ、使用されている扉であることが分かる。

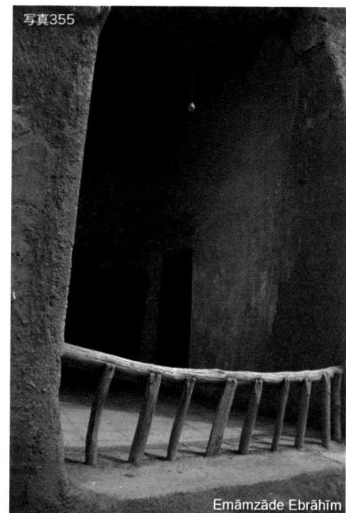


写真355 Emāmzāde Ebrāhīm。村の住宅に面した側の出入口。背の低い柵が設けられており、入るのをためらうが、奥に洗面台が置かれているなど、普通に使用されている空間であるらしい。



写真356 Emāmzāde Ebrāhīm. バーク側の出入り口を入ると、目の前にチェナールの巨木がそびえる。その周囲の小さな墓地から廟の方を見ると、チェナールに隠れてしまっている。

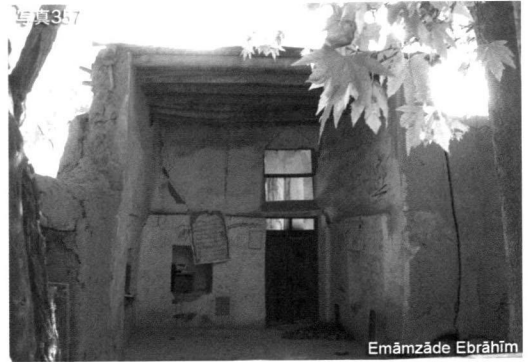


写真357 Emāmzāde Ebrāhīm. チェナールの脇に回り、廟が見える。しかし、こちら側は窓ガラスが割れていたり、落書きも多かったりして、ズィヤーラトの人が減少し、少し荒れた印象がある。

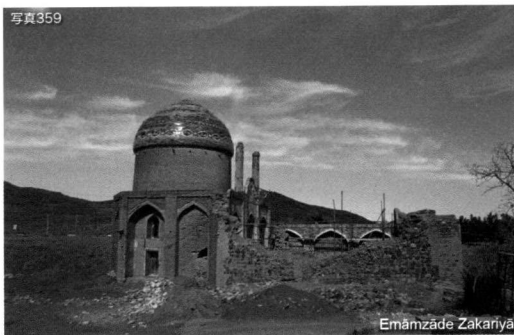


写真359 Emāmzāde Zakariyā. 廟の外側から。廟を取り囲む壁の一部は崩れ、廟の壁もゆがみが出ているため、足場が組まれ、補修が始められているのだが、村の人たちによると、工事はなかなか進んでいないらしい。こうした古い建築物の場合、ワクフ慈善庁と文化遺産観光庁との調整が大変だという。

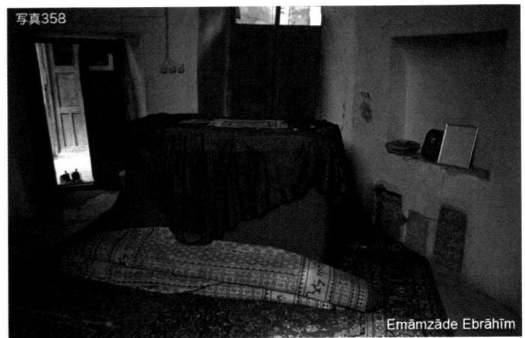


写真358 Emāmzāde Ebrāhīm. ハラム内は壁が落ちていたりドームに穴が空いていたりして、その汚れを避けるため、敷物が一部上げられている。壁にはめ込まれていたはずの墓石も一部は外されていて、壁芯の煉瓦が見えている。



写真360 Emāmzāde Zakariyā. 廟を取り囲む墓地の中から。墓地には立派な墓石を持つものから、石を二つ置いただけの古いものまで様々な墓が並ぶ。

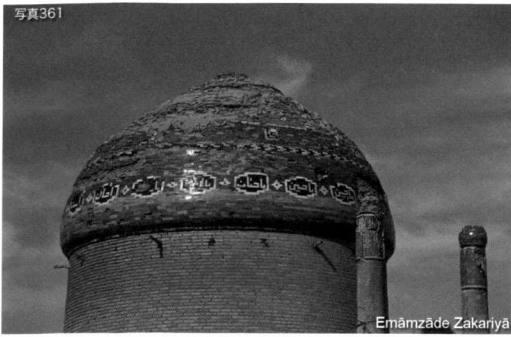


写真361 Emāmzāde Zakariyā. ドーム部分。深い青が印象的なタイルだが、ドーム上部ではだいぶ剥落が進んでいる。ここはまだ修復のための足場は組まれていない。

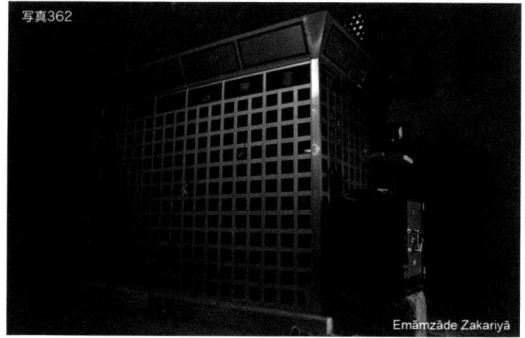


写真362 Emāmzāde Zakariyā. ハラムは電気が通っているはずなのだが明かりがつかず真っ暗。アルミ製ザリーの前には、誰かのナズリーの菓子が置かれ、ズィヤーラトの人々が取って食べられるようになっていた。



写真363 Emāmzāde Zakariyā. ハラム天井ドーム部分。暖色系のモザイク風の彩色で、光があればずいぶんと明るい雰囲気になりそうに見える。



写真364 Emāmzāde Shāhzāde Ja'far. 廟の壁まで墓が迫っている。廟に近い場所には、頭と足の目印に置かれた石だけのものや、板のような石で墓の周囲を囲っただけの古い墓が多く見られる。その中に、革命後目立つ、写真やランプなどを入れたアルミボックスが立てられているのが印象的な墓地。

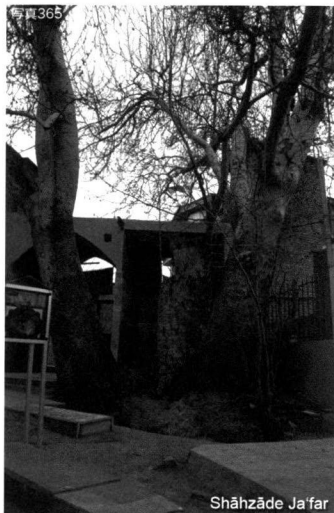


写真365 Emāmzāde Shāhzāde Ja'far. 廟の前にそびえるチェナールの巨木。何本かに別れた幹の一本は途中で折れてしまっている。根本ぎりぎりまで墓石が見られる。



写真366 Emāmzāde Shāhzāde Ja'far. 一方の壁に寄せて置かれたザリー。ハラムの扉は閉められているのだが、ズィヤーラトの人がいつでも入ることができるよう、扉脇からはみ出ているひもを引っ張ると扉が開くようになっていて便利。

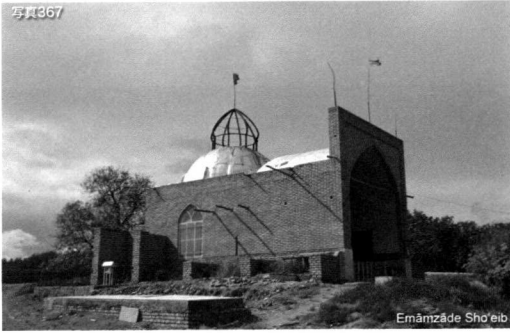


写真367 Emāmzāde Sho'eib. イーゾガームを張ったドームの上に乗った作りかけのドームが目を引く新しい廟。ドームを完成させるための工事が行われていたり、行われようとしていたりする様子は全く見られない。



写真368 Emāmzāde Sho'eib. 廟の入り口扉に結ばれたダヒールと南京錠。扉に鍵はかけられていなかったのだが、ここに結びたかったらしい。



写真369 Emāmzāde Sho'eib. アルミ製のサンドウーグ。一カ所格子の中が開けられているのは、お金を投げ込むための場所。ここではダヒールを結んだり南京錠をかけたたりすることができないため、入り口扉が使われたのだと分かる。



写真370 Emāmzāde Sho'eib. 板に紙を貼ったズィヤーラト・ナーメ。紙はぼろぼろになり、文字もかすれて読むことが難しい部分も多いが、それでも、ワクフとして寄付されたものであるため、大切に保管されている。



写真371 Emāmzādegān Esmā'īl va 'Abdollāh. 斜面の上で塀に囲まれているため、道からは気づきにくい。秋から冬にかけては訪れる人もほとんどいないので、廟の扉は閉めているとのこと。



写真372 Emāmzādegān Esmā'īl va 'Abdollāh. 廟の前にある泉。現在はふたがされ、水量もそれほど多くないように見えるが、昔はもっと水量が多く、ホズを満たすほどだったとのこと。



写真373 Emāmzādegān Esmā'il va 'Abdollāh。
ハラムに置かれたアルミ製のザリーと青く塗られた天井ドーム。ここも、電気は引かれているはずなのだが、明かりがつかず、暗い廟内での撮影になってしまった。



写真374 Emāmzādegān Esmā'il va 'Abdollāh。ハラムの天井に渡された鎖に、びっしりとダヒールが結ばれている。ザリーにも結ぶことができそうだし、簡単に手が届く場所ではないのだが、それでもここに結ぶことに何か意味があるのかもしれない。

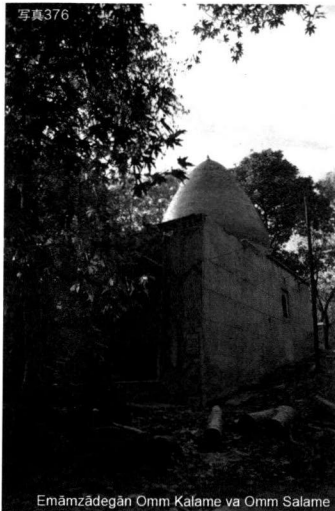


写真376 Emāmzādegān Omm Salame va Omm Kalame。
チェナールの脇から廟を見る。廟の周囲には、倒れた、あるいは切り倒されたチェナールと墓石が多数見られる。



写真375 Emāmzādegān Omm Salame va Omm Kalame。
背の高いチェナールの影になっているため、墓地に気がつかないとうっかり通り過ぎてしまう。廟の周囲に光って見える石材は墓石。

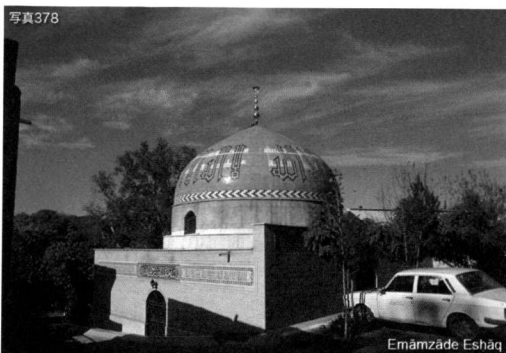


写真378 Emāmzāde Eshāq。村の入り口脇に建つ真新しい廟。白っぽい外壁と青いドームが目立つ。写真左の影はマスジェド。



写真377 Emāmzādegān Omm Salame va Omm Kalame。
廟の前部の柵には多数のろうそくを灯した跡が見られる。ここも、電気は引かれているはずなのに廟内の明かりがつかず、窓もないため真っ暗だった。

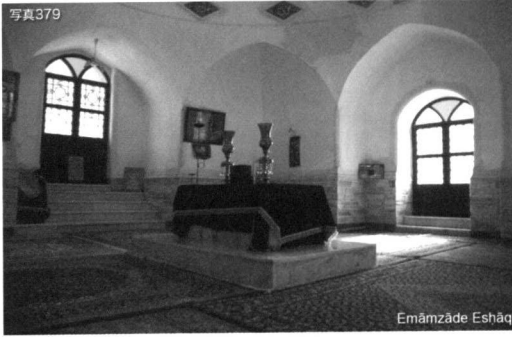


写真379 Emāmzāde Eshāq. 広くて明るい廟内に置かれた大理石の墓石。隣にマスジエドがあるが、女性はここで礼拝を行う人も多い。

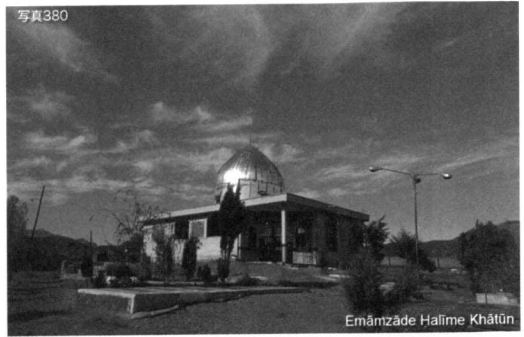


写真380 Emāmzāde Halīme Khātūn. 村の外に広がるパークの更に外側に建つ廟とその周囲の墓地。ゆっくりと何年かかけて廟を新築していたが、そろそろ完成が近いらしい。

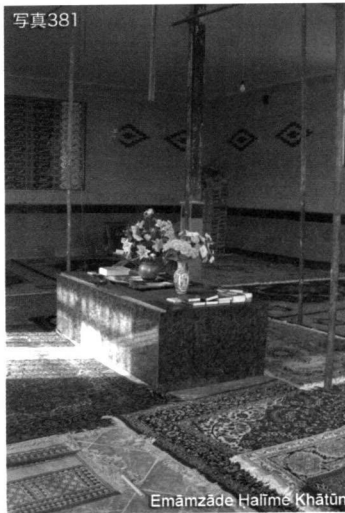


写真381 Emāmzāde Halīme Khātūn. ハラム内はまだ建築現場の様相だが、床には大理石が張られ、墓石も置かれている。ザリーについては置きたいがまだ分からないとのことだった。

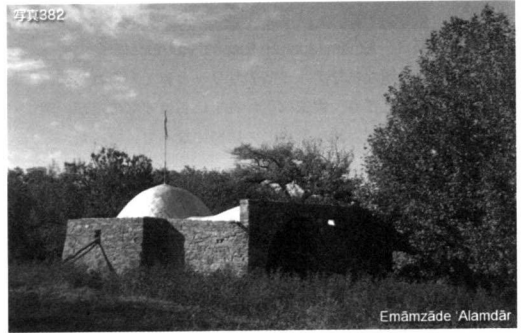


写真382 Emāmzāde 'Alamdār. 草木の生えていない禿げ山の中を延々と走ってたどり着く、パークや畑に囲まれた廟。パークも廟も大きなものではないが、周囲に何も無い山の中にあるため非常に目立つ。



写真383 Emāmzāde 'Alamdār. 廟の前には泉が湧き、小さな池が作られている。この水を利用して廟周辺のパークや畑が維持されていることが分かる。



写真384 Emāmzāde 'Alamdār. 廟の裏手には小規模な墓地が見られる。見た感じでは、それほど古い墓はなく、数も多くない。比較的大きな石がごろごろとしているのだが、墓の目印だったのかどうか判断が難しい。



写真385 Emāmzāde 'Alamdār. 入り口前のファサード上部。石を組み合わせ、漆喰でつないでいるもの。修理が行われたばかりなので漆喰がまだ白い。こういった石積みのお廟は時々見かけるが、こうした凝った作りのものは案外少ない。



写真386 Emāmzāde 'Alamdār. 入り口の扉は鍵がかけられていたが、まだ窓ガラスが入っていませんでしたので、そこからのぞき込んでみた。まだ改修作業中、あれこれと資材等が床に置かれている中、ザリヤータンを持たない墓石が置かれているのが確認できた。墓石の上に載せられている白い板状のものが何かは確認できなかったが、他所での例から、以前使用されていた墓石ではないかと思われる。

ガーハーン地区 (Dehestāne Qāhān) の聖所

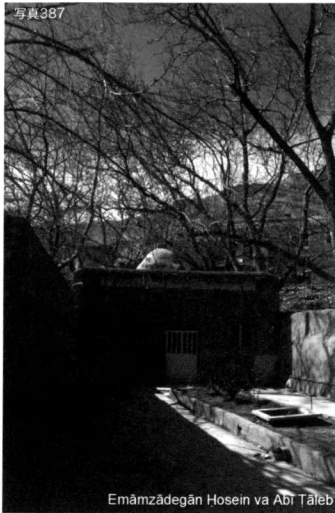


写真387 Emāmzādegān Hosein va Abī Tāleb. 村の外に広がるパークの中。塀に囲まれ、ドームも気持ちだけといった感じで目立つ大きさのものではないため、うっかり見落としそうになってしまう。



写真388 Emāmzādegān Hosein va Abī Tāleb. 廟に入るとすぐに小屋があり、その奥がハラム。ズィヤールトの人が通い、整えられているのは分かる。



写真389 Emāmzāde Bībī Sharīfe Khātūn. 大規模改修が行われている最中で、ドームは基礎部分があるもののドームそのものはまだ作られていない。また、廟を取り囲む柵を作るための作業が進行中。これらの作業のため、廟の周囲に広がっていた墓のうち、古いものが取り除かれ、積み重ねられたり、資材として再利用されたりしていた。



写真391 Emāmzāde Hādī。廟の正面から。街道すぐ脇の少し下がった場所に建っているのだが、写真の左半分を占めるチェナールの巨木と青いドームが目印。筆者の後ろ、廟と向き合うようにしてマスジェドと管理事務所が建てられている。

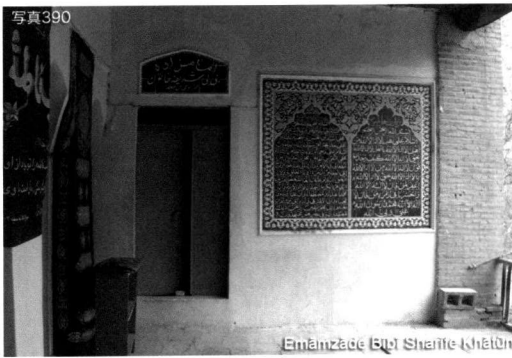


写真390 Emāmzāde Bibi Sharife Khātūn。ハラム入り口の扉。2006年に訪れた際のもの。このときは電気が止められていて真っ暗だったため、ハラム内の写真を撮ることができなかった。

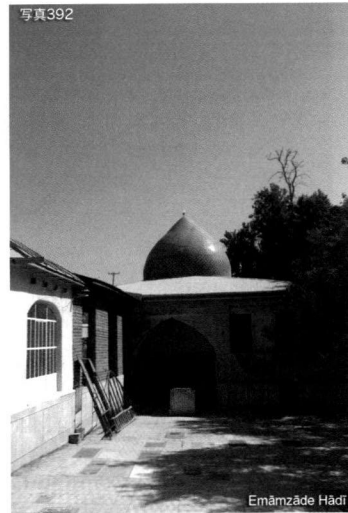


写真392 Emāmzāde Hādī。廟の裏手から。こちら側からも廟内に入れるようになっているように見えるが、この扉は閉められている。廟のこちら側も墓地となっており、平面に整備された新旧の墓が多数見られる。



写真393 Emāmzāde Hādī。廟の建つ場所より一段低くなった場所には、アーバンパールとハウスが作られている。この水はガナートで引かれたものとのこと。この水は、廟の中をめぐった後、周囲のバークへと導かれていく。



写真394 Emāmzāde Hādī. ドアの前に掛けられたカーテンの向こうには、廟の大きさの割に小さくシンプルに感じられるハラムと、そこに置かれたアルミ製のザリー。

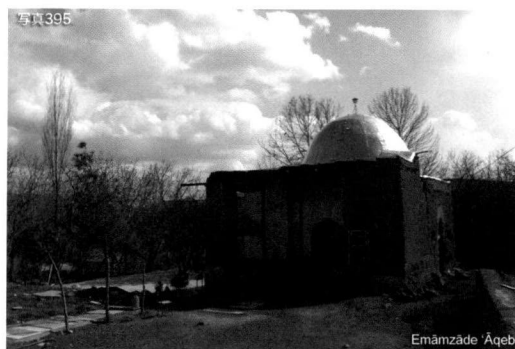


写真395 Emāmzāde 'Āqeb. 街道から廟に下りる階段から。廟と廟を取り囲む塀や正門の改修工事中。以前はタールを塗った黒いドームだったが、2009年にはイーゾガームの銀色のドームに変わっていた。

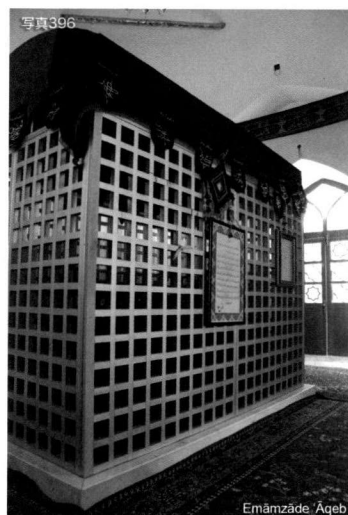


写真396 Emāmzāde 'Āqeb. 改修が終わって明るくなった廟内には大型のアルミ製ザリーが置かれている。この数年で改築・改修が行われた廟には、比較的、このように大きな窓を取った明るいハラムが多い。

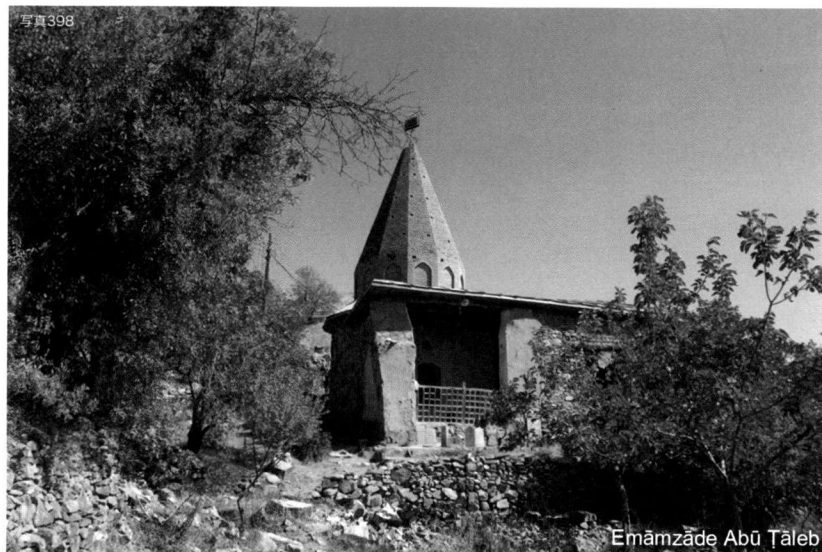


写真398 Emāmzāde Abū Ṭāleb. 斜面を下って廟の正面から。ドームの先が欠けていたり、壁がゆがんでいたりするのが分かるが、ドームの煉瓦や壁など、補修が行われているのも分かる。

写真397

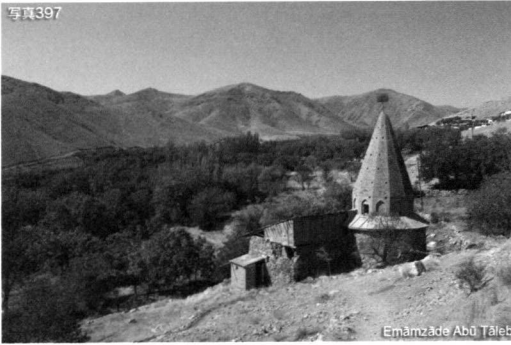


写真397 Emānzāde Abū Ṭāleb。村の手前、川に向かって下りていく斜面の途中に細身の角錐ドームが見える。一部トタンで補修が行われた煉瓦造りの廟がこちらに背を向けて建っている。

写真399

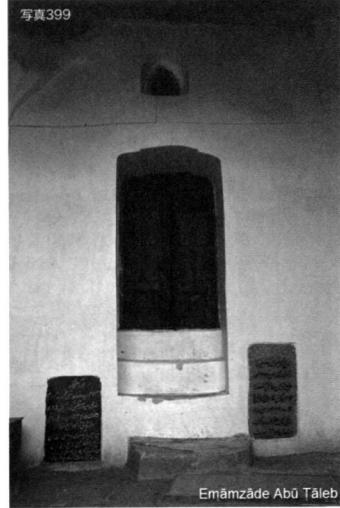


写真399 Emānzāde Abū Ṭāleb。ハラム入り口。扉は腰をかかめなくてはならないほど低いもの。扉前の階段の目の前にある緑色の石版はセイエドの墓。その他にも壁面や床面にいくつもの墓石が見られる。

写真400

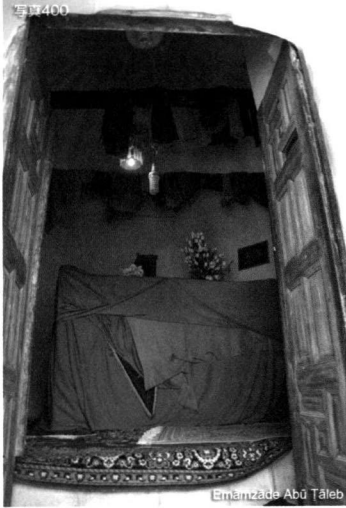


写真400 Emānzāde Abū Ṭāleb。扉を開けるともう一段階段があり、目の前に緑の布で覆われたサンドウグが見える。ハラム内はサンドウグの周囲をめぐるのが精一杯の広さしかない。

写真401



写真401 Emānzāde Abū Ṭāleb。ハラム天井ドームを見上げると、ドームに渡された二本の木材から、何枚もの緑の布が下げられている。他の廟でも見ることがあるが、ここは数が多い。

写真402



写真402 Emānzāde Aḥmad。村を通り過ぎると街道下の斜面に薄い緑色のドームを持つ廟が見えるが、ドームよりも、塔状の廟とそこにつながった建物の屋根に使われているトタンが目についてしまう。

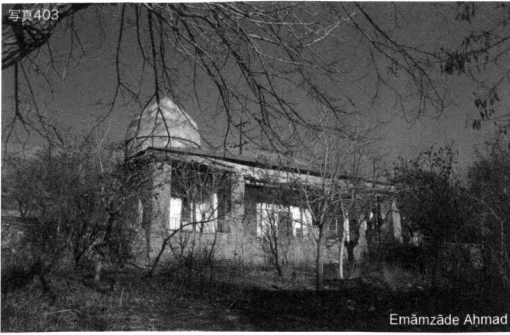


写真403 Emāmzāde Aḥmad. 斜面下から。廟の敷地は案外狭く、周囲はバーグとなっている。そのバーグの中から。廟の出入口は写真右手からになる。



写真404 Emāmzāde Aḥmad. 廟の出入口。廟の前には小さな墓地。ここは少し古いものが多く、新しい墓は、廟を囲む塀の外とドームの載った塔の周囲に多い。右手の建物は屋根をかけた空間があるのみで用途は不明。



写真405 Emāmzāde Aḥmad. ハラム入り口。礼拝などに使える部屋となっているが、この部屋の壁面にはいくつかの墓石が埋め込まれ、床の絨毯の下にも墓石らしい凹凸が見られる。



写真406 Emāmzāde Aḥmad. 円筒形の狭いハラム。ここも天井に渡されたワイヤーに緑色の布が下げられている。



写真407 Emāmzāde Moḥammad Mahdī. 川に向かって下りていく斜面に張り付いた村に入ると青いタイルが張られ、先が欠けた角錐ドームの先が見える。村の細い道を辿って廟にたどり着く間、村の建物の陰になってドームが見えなくなることもあり、目印となりにくい。



写真408 Emāmzāde Moḥammad Mahdī. 廟の前は村の小さな広場になっている。扉が二つあるが、右はマスジェドのもので、左の階段奥がエマームザーテのもの。現在二つの建物は外見上一つの建物のようにになっているが、内部ではつながっておらず、それぞれの出入口を使う必要がある。



写真409 Emāmzāde Moḥammad Mahdī. 廟内には何本もの太い柱が立てられている。手前の部屋は、床がなく、いくつかの墓が置かれているだけのもの。ハラムは奥のアーチ状の天井の小部屋の奥。絨毯を引いたこれらの部屋の壁や床にも墓が見られる。

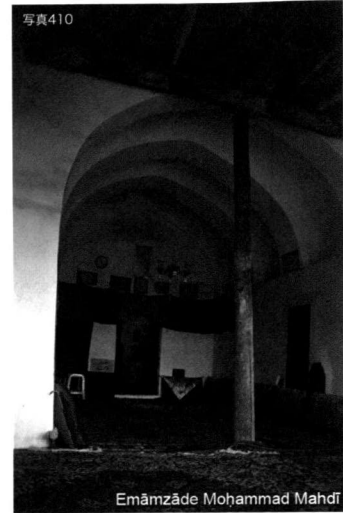


写真410 Emāmzāde Moḥammad Mahdī. ハラム入り口。円筒状のハラムはそれほど広いものではなく、ズィヤーラトの人々はハラム手前の部屋でくつろいだり礼拝を行ったりできるようなっている。壁に沿って並べられたポシュティーの後ろには、絨毯の下に埋葬されている人の墓石が見られる。

ジャアファル・アーバード地区 (Dehestāne Ja'far ābād) の聖所



写真411 Shāhẓāde Tāher. 村はずれの広い墓地の中に建つ新しい廟。村への道路から廟への通路にもいくつかの墓石が見られる。手前のチャハールターグは新しいもので、ある人物とその家族の墓を覆っているもの。



写真412 Shāhẓāde Tāher. 別な角度から。人々の信仰を大いに集めているのだろうということは分かるのだが、廟はいつ訪れても閉まっていて、廟内に入ることができない。



写真413 Emāmẓāde 'Emrān. ビヤーバーンの中の小さな村の外れに建つ真新しい廟。廟の前にある小さなタッベの上から。



写真414 Emāmẓāde 'Emrān. 廟の敷地内の小さな墓地。少し古い、小さな墓石のものが多く、新しい墓は、写真413に見えるトタン屋根をかけた場所に置かれている。



写真415 Emāmẓāde 'Emrān. 新しく、窓が大きく取られた明るいハラムには、部屋いっぱいになるかと思うような、巨大なアルミ製ザリーが置かれている。

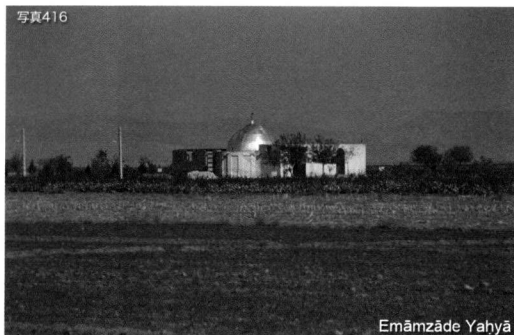


写真416 Emāmẓāde Yahyā. 村へ向かう道路から畑を挟んで廟を見る。現在、廟の周囲は開発が進み、綿花を中心とする畑が広がっている。

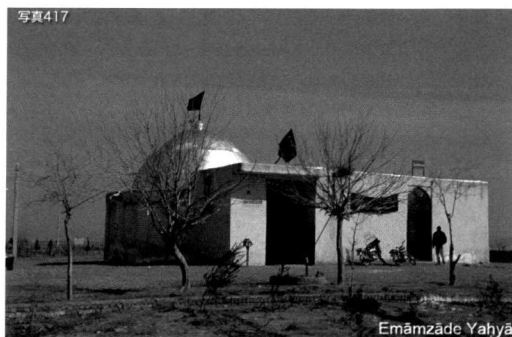


写真417 Emāmẓāde Yahyā. 廟の正面から。増改築が行われており、廟にはマスジェドが付け加えられている。オリジナルの廟はドームの載った円筒部分だったとのこと。改修が行われているが、既に土中のミネラル分などが外壁にしみこみ、白く吹き出している。

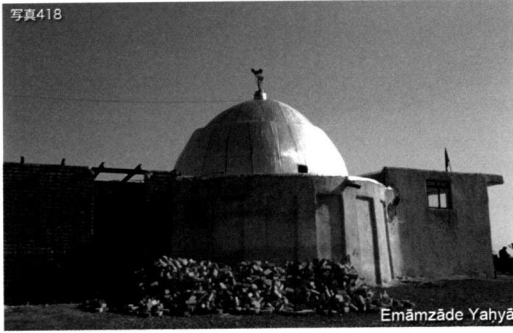


写真418 Emāmzāde Yahyā。廟の横手から。増築工事中で、工事に使用する煉瓦が積みまれている。村からは少し距離があるが、農作業の行き帰りに、あるいは村からバイクでここを訪れ、礼拝を行って行く人が絶えない。

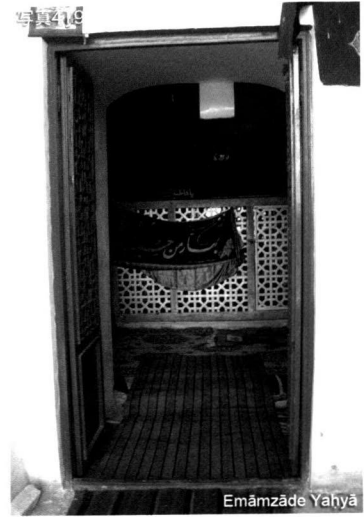


写真419 Emāmzāde Yahyā。ハラムの中。ここで礼拝を行う人が多いからなのか、ザリーの裏側には、広げたジャー・ナマズが何枚も並べられている。

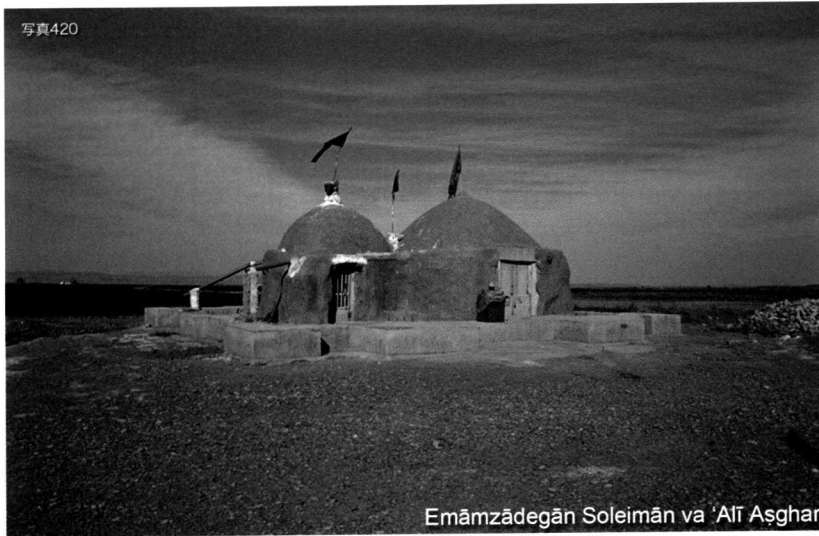


写真420 Emāmzādegān Soleimān va 'Alī Aṣghar。村から少し外れた畑の中に並ぶ、二つの土のドームが印象的な廟。写真右端に見えるように、改修工事が行われており、長らく、廟内を見ることができずにいたが、2009年には工事はほぼ完了し、ズィヤーラトの人々が廟内に入ることができるようになった。



写真421 Emāmzādegān Soleimān va 'Alī Aṣghar。二つ連なっているドームのそれぞれに入口が設けられているが、現在は、向かって右側のみが開けられている。これは入口からすぐ置かれているエマームザーデ・ソレイマーンの墓石。



写真422 Emānzādegān Soleimān va 'Alī Aṣghar。エマームザーデ・ソレイマーンの廟からエマームザーデ・アリー・アスガルの廟を見る。もともとこの廟は背が低いのだが、二つの廟をつなぐ通路は更に低くて、腰をかかめなくては行き来ができない。



写真423 Emānzādegān Soleimān va 'Alī Aṣghar。エマームザーデ・アリー・アスガルの廟からエマームザーデ・ソレイマーンの廟を見て。こちらは閉められたままの扉上部の小さな窓が一つあるだけなので暗いのだが、漆喰の白い壁などのおかげで明るく感じられる。



写真424 Emānzādegān Soleimān va 'Alī Aṣghar。廟の扉に結ばれたダヒール。改修のため廟が閉められているときでも、このように人々が訪れ、ダヒールを結んでいた。

カーシャーン街道 (Jādde Kāshān) の聖所

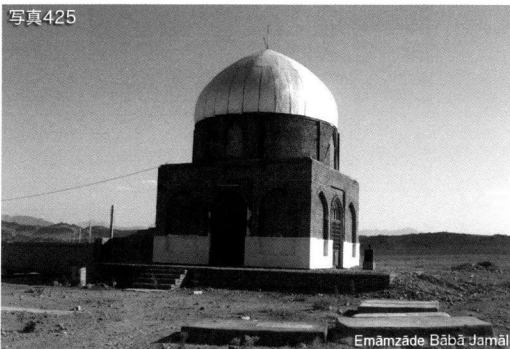


写真425 Emānzāde Jamāl al-Dīn。古い廟を取り壊し、新しい廟を建築中。これもどこかで見かけたような外観で、これが現在のイランあるいはゴムの流行と思われる。

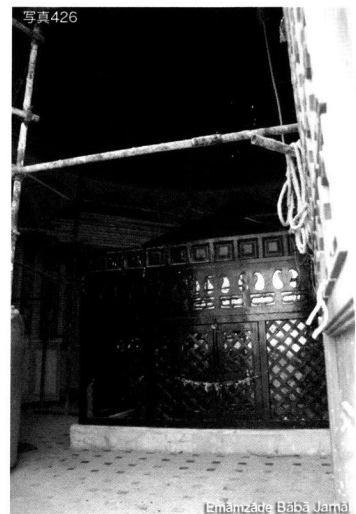


写真426 Emānzāde Jamāl al-Dīn。ハラムの中もまだ工事中。ザリーは以前のものが置かれ、一部破損したままになっている。



写真427 Emāmzāde Jamāl al-Dīn。ザリーにかけられた鎖に結ばれたダヒールや南京錠。ザリー自体にはガラスが入っていてダヒールを結んだりできないため、ここを使っているらしい。

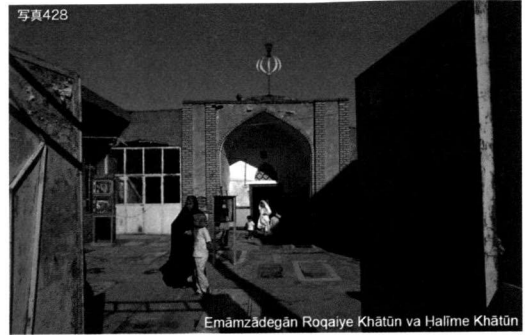


写真428 Emāmzādegān Roqaiye Khātūn va Ḥalīme Khātūn。木曜日になると村の女性たちが集まってくる。向かって右手はマスジェド、左側には廟に付属した施設。廟の前や後ろには墓地が広がっている。



写真429 Emāmzādegān Roqaiye Khātūn va Ḥalīme Khātūn。廟内は、壁の漆喰が落ちている部分などがあるが、人々は木曜日ごとに多く訪れ、祈りを捧げている。



写真430 Emāmzādegān Roqaiye Khātūn va Ḥalīme Khātūn。2009年には廟の周囲の建物を取り壊し、増改築を行うための準備が始まっていた。廟内も墓石は残っていたが、床や壁ははがされていた。それでも、木曜日には女性たちがズィヤーラトに訪れていた。

<聖所>にまつわる伝承



写真431 Shāhzāde Esmā'īl。サフン中央にある井戸。現在は金属のふたがしてあり、直接水を汲むことはできないが、ポンプで水をくみ上げ、廟の関連施設に配水が行われている。



写真432 Shāhzāde Esmā'īl。井戸のふたを開けてもらったが、深さは分からない。どんな干ばつの年にも涸れることなく、ズィヤーラトの人々の必要を満たしている。

Studia Culturae Islamicae No.98

The Research and Educational Project for Middle East and Islamic Studies (MEIS) Series No.15

ゴム州の聖所

清水直美

上岡弘二

2011年6月

発行 東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

Tel. 042-330-5600

印刷 三鈴印刷株式会社

از مسئولین محترم مرکز سازمان اوقاف و امور خیریه و دفتر استان قم از جمله آقای سروقدی در قسمت بقاع متبرکه دفتر مرکزی که بزرگوارانه مجوز لازم برای این تحقیقات را صادر کردند، سپاسگزاری می‌کنم. قطعاً بدون همکاری این سازمان محترم، انجام چنین تحقیقی برای نگارنده که یک تبعه خارجی است، ممکن و میسر نبود.

همچنین از متولیان امامزاده‌ها و نیز عزیزانی که علیرغم مشغله زیاد زحمت راهنمایی نگارنده را متقبل شدند، تشکر و قدردانی می‌نمایم. به علاوه، از آقایان چپریان و احسانی که بزرگوارانه زحمت رانندگی در جاده‌های صعب‌العبور را متقبل شدند و نیز در گفت‌وگو با روستاییان و زائران اماکن متبرکه کمک فراوانی به اینجانب نمودند، صمیمانه تشکر می‌کنم. بدون کمک این بزرگواران نیز انجام این تحقیق میسر نمی‌شد.

انتشار کتاب حاضر مرهون زحمات بی‌شائبه ریاست اسبق مؤسسه مطالعات فرهنگ‌ها و زبان‌های آسیا و آفریقا، جناب آقای کوچی کامی اوکا می‌باشد. بدون تشویق این استاد گرانقدر گردآوری نتایج تحقیق و انتشار آن میسر نمی‌شود. بار دیگر مراتب سپاس و قدردانی خود را ابراز می‌نمایم. همچنین اگر مساعدت استاد گرامی آقای ... نبود، این تحقیق به نتیجه نمی‌رسید. جا دارد در اینجا از زحمات ایشان صمیمانه مراتب تشکر و قدردانی خود را ابراز نمایم.

نگارنده قصد دارد پس از اتمام تحقیق در استان قم، به تحقیق در استان‌های دیگر پرداخته و کار خود را ادامه دهد. امیداست نتایج بدست آمده در این تحقیق‌ها به عنوان یکی از نتایج اساسی در پژوهش پیرامون باودهای عامیانه و به ویژه اعتقاد به زیارتگاه‌ها در ایران به کار آید.

و در نهایت، از تمام کسانی که در ژاپن و ایران، به طریق مختلف نگارنده را مورد تشویق و حمایت خود قرار دادند، به ویژه از همسر و خانواده‌ام که فرصت تحقیق بلندمدت در ایران را به اینجانب دادند، از صمیم قلب تشکر و سپاسگزاری می‌نمایم.

نانومی شیمیزو

بهار 2011

مقدمه فارسی

این کتاب گزارش مختصری است از بررسی هایی که نگارنده در خلال سال های 2006 الی 2007 میلادی در مورد وضعیت فعلی اماکن متبرکه استان قم انجام داده است. در استان قم اماکن متبرکه و زیارتگاه هایی همچون آستانه مقدس حضرت معصومه که از زیارتگاه های معروف شیعیان است، وجود دارد. نگارنده کتاب پژوهشی دیگری را نیز تحت عنوان " اماکن متبرکه در استان تهران" در سال 2009 میلادی به چاپ رساند. این کتاب ادامه تحقیق "اماکن متبرکه در استان تهران" می باشد.

شهر قم یکی از مراکز بین المللی تدریس و معارف اسلامی و فقه شیعی است. در این شهر حوزه های علمیه و دانشگاه ها و مؤسسات آموزشی و پژوهشی متعددی وجود دارند که در زمینه علوم و معارف اسلامی فعالیت می کنند. علاوه بر این، حوزه علمیه قم که محل تحصیل و تدریس بنیانگذار انقلاب اسلامی ایران، امام خمینی، می باشد مرکز نقل نظام جمهوری اسلامی ایران است. زیرا تشیع یک نظام دینی - سیاسی بوده و روحانیون شیعه جایگاه خاصی در حکومت دارند و مبنای حکومت اسلامی ایران، ولایت فقیه و رهبری روحانیت است. از این رو، شهر قم در داخل و خارج کشور به عنوان یک شهر مذهبی، سیاسی و زیارتی به حساب می آید و این نکته را می توان از ویژگی های شهر قم بر شمرد که آن را از شهر مشهد که صرفاً یک شهر مذهبی - زیارتی به شماری آید، متمایز می سازد.

نگارنده در خلال نگارش و تدوین کتاب "اماکن متبرکه در استان تهران" به این نکته علاقه مند شد که مردم شهر قم به عنوان یک مرکز مذهبی شیعی نسبت به اماکن مقدسه چگونه اعتقاداتی داشته و چگونه عمل می کنند. به علاوه به دلیل نزدیکی محل اقامت نگارنده، تهران، و شهر قم، وی تصمیم گرفت این تحقیق را در شهر قم آغاز کند.

این پژوهش همانند تحقیق انجام گرفته در استان تهران، با همکاری سازمان اوقاف و امور خیریه انجام شد. منبع اصلی این تحقیق فهرستی راست که اداره سازمان اوقاف قم در اختیار نگارنده قرار داد و علاوه بر آن، اطلاعات اماکن متبرکه مندرج در منابع منتشر شده توسط سازمان میراث فرهنگی و سایر منابع نیز گردآوری شده و تحقیق اماکن متبرکه در استان قم آغاز گردید.

نحوه انجام تحقیقات عمدتاً عکس برداری از وضعیت داخلی و خارجی آرامگاه ها، پرسش و تحقیق از متولیان این زیارتگاه ها با ساکنان مناطق اطراف و زائران این اماکن بوده است.

همان طور که نگارنده در کتاب پیشین خود اشاره کرده، برای انتقال عینی و بیطرفانه وضعیت موجود اماکن متبرکه، غالباً از عکس هایی که توسط خود نگارنده گرفته شده اند، استفاده نموده است. در نتیجه، اگرچه صفحات عکس بالغ بر بیش از نصف کتاب گردیده ولی نگارنده عقیده دارد که اهمیت عکس ها بدین جهت است که در طول مدت تحقیق، نیز وضعیت بعضی از اماکن متبرکه تغییرات قابل ملاحظه ای داشته که عکس ها می توانند مؤید این تغییرات باشند.